

2021年7月21日（水）

老球の細道621号

この夏、チームを変える

会津バスケットボール協会 室井 富仁

1969年（昭和44）7月21日は私にとって人生最初の変革の日であった。その日は高校一年時で、バスケットボールの地区大会（会津総体）が自分の学校で開催されていた。私は多くの同級生がユニフォームを着てベンチに座っている時、後ろでタオルを整理したり、ヤカンに水を入れたりして裏方さんに励んでいた。情けない気持ちで自宅に帰って来てテレビを観ていたら、アメリカの宇宙船アポロ11号の乗組員が月面着陸に成功している様子が映っていた。それまでのんびんだったり生きていた私は脳天に杭を打たれる衝撃を覚えた。その時である、バスケットボールに本気で取り組む決意をしたのは。それ以後、7月21日は私にとって「旅立ちの日」の記念日となった。

学校はもうすぐ夏休みだろうか。夏休みは自分を変える、チームを変えるのに絶好のチャンスである。多くのチームで3年生がチームから離れることになるのでチームは大きく様変わりする。今まで通りのぬるま湯に浸っていては、いつも同じチームが勝ち、いつも同じチームが負ける。メンバーが変わってもだいたい同じことが繰り返される。変わろうとしなければ、人が変わってもチームは変わらない。

これから高校や中学校のカテゴリーではリーグ戦なるものが始まる。しかし、今までと同じようなことをしてリーグ戦を繰り返しかえしても、同じチームが勝ち、同じチームが負ける。どこかでこの悪循環を断ち切らなければならない。それにはこの夏休みが絶好のタイミングである。

この夏チームを変えるためには最低3つのことが必要だと思う。一つは、チームの規律文化の確立である。練習の規律、コーチや指導者に対する規律、学校生活における規律等。これがきちんとできていないチームは、いくら練習をして試合をこなしても変わらない。心のできていないチームには指導者の話は響かない。上っ面だけの練習だから本当の自信が持てない。いざというときに逃げ出し頼りにならない。私も転勤して違うチームを持った時に、最初に最も力を入れるのがチームの規律文化の確立だった。

二つ目は、チームオフENSESを決めることである。チームオフENSESはどのような形にするのか。チームオフENSESの元が決まらないうちにゲームばかりしていても効率的ではない。チームオフENSESが決まれば、無限にある関係プレイ、1:1スキル、ファンダメンタルの中で何を練習したらよいかが見えてくる。タレントに頼るチームに未来はない。

三つ目は基本に戻ることである。自チームに必要なファンダメンタルをピックアップしてゲームライクでできるようにすることである。形がきちんとできることは当然である。現代バスケットボールに要求されるのは、その上で、コンタクトに負けない、適切な状況判断のもとで行使し、最後のシュートフィニッシュを決め切ることまでが要求されている。

チームを変えるために色々考えながら準備することはコーチにとって至福の一時である。